

(3) 本校における電子黒板の活用モデル例

今年度、本校では生徒の実態等を踏まえ、特に以下の①～⑤の5つの活用モデルに視点をあてて日々の実践に取り組んでいる。なお、T1～T5は「電子黒板活用ガイド(電子黒板活用効果研究協議会著)」の教師の活用モデルとの関連を示し、S1～S5までは同じく「電子黒板活用ガイド」の生徒の活用モデルとの関連を示した。

また、①～⑤の活用モデルは、**興味・関心を高める** **集中力を高める** **イメージをつかませる** **考えの共有・深化** **知識・技能の定着**のうち、主にどんな点で有効かを絞って示した。

① 教科書や資料等を拡大して提示

拡大した教科書や資料（プリント、生徒のノート、図、グラフ等）を映し出し、そこに書き込みやマーキングをして強調するなどして指示を徹底させることができる。例えば、教科書を拡大して提示し、自分の教科書のどの部分を説明しているのか注目するときに有効である。

**集中力を
高める**

**興味・関心を
高める**

② 習熟させるため、繰り返しの学習に活用

導入のウォーミングアップや終結での学習内容の確認などの場面で繰り返し提示し、習熟を図ることができる。例えば、英語でデジタルフラッシュカードとして利用し、生徒の顔を見ながら操作し、何回でも提示することができる。

**知識・技能の
定着**

**集中力を
高める**

③ デジタルコンテンツを操作して提示

デジタルコンテンツ（動画、シミュレーション、プレゼンテーション等）を用いることで興味・関心を引き出し、視覚的にイメージをつかみやすくなる効果がある。デジタルコンテンツであれば、様々な理由で実際には見せられないものを、映像によって見せることが可能となる。

興味・関心を
高める

イメージを
つかませる

④ 保存機能を生かし、前に画面を保存しておいたものを再提示

前の学習内容とのつながりをもたせたり、他の生徒の考えや教師の考えと照らし合わせて考えさせることもできる。

知識・技能の
定着

考えの
共有・深化

⑤ 生徒の発表・説明のときに活用

生徒が電子黒板を使って自分の考えを発表し、情報の共有を図るとともに生徒の考えを深め、発表力も養うことができる。

考えの
共有・深化